



Title	Nagasaki Schizophrenia Study: Relationship Between Ultralong-term Outcome (after 28 years) and Duration of Untreated Psychosis
Author(s)	一ノ瀬, 仁志
Citation	(2010-03-19)
Issue Date	2010-03-19
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/24989">http://hdl.handle.net/10069/24989</a>
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-22T10:18:42Z

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 303 号	氏名	一ノ瀬 仁志
学位審査委員	主査 青柳 潔 副査 大園 恵幸 副査 森 望		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、統合失調症患者の精神病未治療期間（DUP）が 28 年後という超長期の転帰と関連しているかを評価したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 評価尺度として精神症状、社会適応度、全般的社会機能を面接調査し、精神病未治療期間（DUP）との関連について重回帰分析を用いて解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、性別、発症様式、診断の亜型、発病年齢、病前適応などの交絡因子を調整しても、精神病未治療期間（DUP）は各評価尺度と関連することを明らかにし、今後の統合失調症研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は精神医学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			